

2017年12月

昔と今の将来の夢はなぜ違うのか ～現代の環境や文化の実態について～

経営学部 経営学科 新井ゼミ
B4R11046 加藤昭廣

【卒業論文概要】

近年、子どもたちが育つ社会環境の変化に加え、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化により、子どもたち自らの将来のとらえ方にも大きな変化をもたらしている。子どもたちは、自分の将来を考えるのに役立つ理想とする大人のモデルが見付けにくく、自らの将来に向けて希望あふれる夢を描くことも容易ではなくなっている。背景として、キャリア教育について、職業意識の形成（自分を知る、仕事への意識）や進路選択の指導（仕事の種類・現状を知る、体験談や職業体験等）、人間関係の構築（他者とのコミュニケーション能力）、雇用形態の現状を学ぶキャリア教育が求められる時代背景が挙げられる。

本論文の目的は、この進路選択の指導を中心として日本の雇用の現状や職業教育の在り方を捉えて、学校教育におけるキャリア教育への取り組みや教育実習校で携わった進路指導やキャリア教育について考察したうえで、なぜ今と昔の将来の夢が変わってしまったのか明らかにすることにある。そのため、学校教育の変化や家庭教育、社会の流れ・環境をもとに昔と今を比べて、どう変化したのか、今後教員になるために指導する立場からどのようにキャリア教育を推進していけばよいのかを探っていききたい。

具体的な研究方法や分析については、教育実習を行った小学校と中学校を対象に、小学6年生と中学2年生にアンケートを実施し、児童・生徒が希望する「就きたい職業」についての実態を調査した。それらの結果を基に分析を行った。私たちの世代（小学6年生と中学2年生時代）の将来の夢といえば、スポーツ選手やエンジニア関係が人気であったが、本アンケート調査の結果として、児童・生徒が希望する「就きたい職業」にパティシエや医者、そしてユーチューバーという新しいジャンルがあることが判明した。

学校教育や家庭教育の違いが年々変化してきており、キャリア教育の定義は「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」（中央教育審議会答申 平成23年1月公表）と示されており、この背景には、キャリアを働くこととしてとらえると、職場だけでなく家庭でも地域社会でも生涯を通して人は働き続けることから、働くことは、どのような環境でも成し遂げることができ、生きる力を育む教育の一つと言える。つまり、学校教育だけの問題だけではなく、家庭や地域の変化によって、どんな環境でも適した力を身に付けさせなければならない。

本稿において、今後の学校教育における進路指導およびキャリア教育の推進のための新たな課題や改善を視座として、望ましい学校教育および家庭教育における新たな提言を示した。